第 12 回 JAILA 全国大会

プログラム・発表概要

第 2 版

東洋大学

白山キャンパス（1 号館）

2024 年 3 月 16 日（土）

JAILA
The Japan Association of International Liberal Arts

はじめに

第 12 回 JAILA 全国大会は、2024 年 3 月 16 日（土）、東洋大学（白山キャンパス）を会場に、対面で開催します。当大会は、一部オンラインでの視聴も可能なハイブリッド開催となっています。大会案内ページにて、概要をご確認ください。

「大会案内ページ」

大会参加には、事前の申込手続きが必要です。JAILA 大会案内ページ（上記リンク）の「■ 参加申込」において受け付けておりますので、参加希望の方は、上記ページをご覧の上、期日までにお申込ください。

オンライン参加にかかわる具体的事項につきましては、別途、特設サイトに掲載します。特設サイトへのアクセスに必要な情報等は、大会参加申後（大会開催日まで）に、JAILA 事務局からメールでお知らせします。非会員の方におかれましては、オンラインのみの参加の場合でも、申込手続きが必要となります。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

本冊子には、当大会（対面）の概要および研究発表プログラムおよび発表概要を掲載しています。

ご不明な点がありましたら、大会運営事務局（office@jaila.org）にお問い合わせください。

改訂履歴

第 1 版	2024 年 2 月 20 日	初版公開
第 2 版	2024 年 2 月 21 日	プログラムおよび概要変更 ※口頭発表 1 件削除：1407 教室 10:30-11:00

大会概要

【日時】 2024 年 3 月 16 日（土） 9 時 15 分～ ※ 受付開始 8:45～

【会場】 東洋大学 白山キャンパス（1 号館 4 階）
〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20

東洋大学より許可得て一部加工して転載（https://www.toyo.ac.jp/assets/campus_map_hakusan1.jpg）

８号館の守衛所で入構証を提示し、
８号館正面入り口からお入りください。左手に１号館への通路がありますのでそれを進み、
１号館のエレベーターで４階に上がってください。
※入構証は、大会参加申込完了後、メールで送信します。

【交通】 都営地下鉄三田線 白山駅徒歩(5 分)／都営地下鉄三田線千石駅（徒歩 8 分)／
東京メトロ南北線 本駒込駅（徒歩 5 分)／東京メトロ千代田線 千駄木駅（徒歩 15 分）

【関連リンク】

［所在地］	東洋大学白山キャンパスへのアクセス（東洋大学 Web サイト） https://www.toyo.ac.jp/about/introducing/access/
［構内図］	東洋大学キャンパスガイド（東洋大学 Web サイト） https://www.toyo.ac.jp/nyushi/about/campus/hakusan/index.html

【参加費】　正会員　無料、当日会員 1,000 円※1、学生（フルタイム）・開催校関係者無料

※1 オンラインのみの参加の場合は無料です
※2 情報交換会（懇親会）については、別途費用がかかります

【申込手続き】

参加には事前の申込が必要です。大会案内ページの「■参加申込」より申込可能です。

大会案内ページ

［申込期限］　**3 月 13 日（水）18:00**

※ JAILA 会員の方におかれましても、対面参加の場合は、申込手続きが必要です。ただし、JAILA 会員で、かつ、オンラインのみの参加の場合は、申込不要です。
※ 情報交換会にご参加の方は 2 月 28 日までにお申し込みください。
※ 申込完了後、会場となる東洋大学構内への入構証をメールで送信します。

【お願い】

・大会当日、学食等は営業していませんので、各自昼食をお持ちください。

【情報交換会（懇親会）】

時間	18：15～20：15
場所	サブウェイ東洋大学白山キャンパス店［8 号館 1 階］
会費	6,000 円、学生は 3,000 円　（変更の可能性あり）

場所・会費については予定です。変更になることがあります

※ 事前の申込が必要です（大会参加申込時に、情報交換会への参加希望の有無を指定ください）。
※ 情報交換会に参加の方は 2 月 28 日までにお申し込みください。席数に限りがありますので、人数の上限に達した場合には途中で締め切りとさせていただく場合があります。ご了承ください。

【開催判断について】

気象特別警報等の発令や大規模災害の発生等、大会参加者に危険が及ぶ恐れがある場合、開催にあたっての責任者（日本国際教養学会会長もしくは開催校委員長等）は、大会の開催中止を決定することがあります。開催中止と決定した場合には、直ちに JAILA Web サイト（トップページ）および大会案内ページ、電子メール（お申し込み時の登録したメールアドレス宛）にて告知します。

【問い合わせ先（JAILA 事務局）】

〒700-8530　岡山市北区津島中２－１－１
岡山大学　教育推進機構
五十嵐潤美　研究室
電子メールアドレス：　office@jaila.org

日本国際教養学会：　2024 年 3 月 16 日（土）　東洋大学白山キャンパス

JAILA　第 12 回全国大会プログラム

8:45-	受付（1 号館 4 階）		
9:15-9:25	開会式（1404教室）		
教室	1406教室	1403教室	1407教室
Session 1 司会	乾 美紀（兵庫県立大学）	内山 八郎（徳島大学）	深谷 素子（鶴見大学）
9:30-10:00		**「マーガレット・アトウッドの『マッドアダム』シリーズにおける人間の良心のメタファーとしての動物」** 張 可瑩（大正大学大学院生）	**「「準文学」テクストの文体：メタ言語能力育成の視点から」** 寺西 雅之（兵庫県立大学）
10:00-10:30	**「教育における「調和と協調に基づくウェルビーイング」を考える」** 宇野 光範（神戸親和大学）	**「英語学習における現代の和製英語の影響」** 五ノ井 杏（東京大学大学院生）	**「多文化共生社会の実現のためのやさしい日本語の位置づけ—異文化コミュニケーションにおけるやさしい日本語の貢献と限界—」** 姜 碩（山口県立大学大学院生）
10:30-11:00	**「小学校低学年における外国語教育の全国的動向：必修ではない状況下での地域差」** 青田 庄真（茨城大学）	**"Enhancing Japanese International Students' Opportunities for Socializing in English during Their Study Abroad"** Yoshifumi Fukada (Toyo University)	
11:00-11:10	休憩		
11:10-12:10	**1404教室（ハイブリッド・ライブ配信）** **講演：文学を教えること・学ぶこと～イギリス児童文学を題材に～** 講師：佐藤 和哉（日本女子大学） 司会：久世 恭子（東洋大学）		
12:10-13:00	ランチ・タイム		
13:00-14:00	ポスター発表（1310教室・1311教室）		
教室	1406教室	1403教室	1407教室
Session 3 司会	北 和丈（東京理科大学）	宇野 光範（神戸親和大学）	松浦 加寿子（倉敷市立短期大学）
14:10-14:40	**「英語に堪能な若手小学校教師の英語音声指導観の変容過程③—多様性と明瞭性をめぐる葛藤に関する省察に着目して—」** 和田 あずさ（宮城教育大学） ナットチー 直子（能勢ささゆり学園）	**「短期ボランティア活動の多様な在り方と地域ニーズに関する比較研究—アジア5カ国における大学生の活動事例を中心として—」** 岸田 夕奈（兵庫県立大学学生） 乾 美紀（兵庫県立大学）	**「日英語の捉え方の違いに着目した文法授業案」** 篠崎 亮哉（東京大学大学院研究科研究生）
14:40-15:10	**「海外研修引率を通じて見る学生同士のコミュニケーションの変化について」** 佐藤 洋一（東洋大学）	**「ラオスにおける村教育開発委員会の役割と効果に関する研究—5つの村の学習成績に焦点を当てて—」** 宮城 ひなた（兵庫県立大学学生） 乾 美紀（兵庫県立大学）	**「英語スピーキングにおける「やり取り」を促進する指導法」** 麻生 雄治（大分大学）
15:10-15:40	**「DeepLを使用した授業内英作文活動の意義と課題—大学生の英作文に対する意識に焦点を当てて—」** 奥石 采佳（東京大学大学院学生） 上原 遼（東京大学大学院学生）	**「学士課程での英語語彙学習レベルについての考察」** 山本 五郎（法政大学）	
15:40-15:50	休憩		
15:50-17:20	**1404教室（ハイブリッド・ライブ配信）** **シンポジウム：グローバル時代下の歴史教育—自国中心の歴史観からの脱出を—** 司会・講師：鄭 成（兵庫県立大学） 講師：梅村 卓（西南学院大学）・小川 涼作（会津若松ザベリオ学園高等学校） ディスカッサント：劉 傑（早稲田大学）		
17:20-17:50	閉会式・総会（1404教室）		
18:15-20:15	情報交換会（懇親会）8 号館 1 階「サブウェイ」		

研究発表・講演概要　目次

研究発表・午前の部 ［1406 教室］ / 10:00-10:30 / 10:30-11:00 7

教育における「調和と協調に基づくウェルビーイング」を考える 7

小学校低学年における外国語教育の全国的動向：必修ではない状況下での地域差 7

研究発表・午前の部 ［1403 教室］ 9:30-10:00 / 10:00-10:30 / 10:30-11:00 8

マーガレット・アトウッドの『マッドアダム』シリーズにおける人間の良心のメタファーとしての動物 8

英語学習における現代の和製英語の影響 8

Enhancing Japanese International Students' Opportunities for Socializing in English during Their Study Abroad 8

研究発表・午前の部 ［1407 教室］ 9:30-10:00 / 10:00-10:30 / 10:30-11:00 9

「準文学」テクストの文体：メタ言語能力育成の視点から 9

多文化共生社会の実現のためのやさしい日本語の位置づけ－異文化コミュニケーションにおけるやさしい日本語の貢献と限界－ 9

研究発表・午後の部 ［1406 教室］ 14:10-14:40 / 14:40-15:10 / 15:10-15:40 10

英語に堪能な若手小学校教師の英語音声指導観の変容過程③－多様性と明瞭性をめぐる葛藤に関する省察に着目して－ 10

海外研修引率を通じて見る学生同士のコミュニケーションの変化について 10

DeepL を使用した授業内英作文活動の意義と課題－大学生の英作文に対する意識に焦点を当てて－ 10

研究発表・午後の部 ［1403 教室］ 14:10-14:40 / 14:40-15:10 / 15:10-15:40 11

短期ボランティア活動の多様な在り方と地域ニーズに関する比較研究－アジア５カ国における大学生の活動事例を中心として－ 11

ラオスにおける村教育開発委員会の役割と効果に関する研究－５つの村の学習成績に焦点を当てて－ 11

学士課程での英語語彙学習レベルについての考察 11

研究発表・午後の部 ［1407 教室］ 14:10-14:40 / 14:40-15:10 / 15:10-15:40 12

日英語の捉え方の違いに着目した文法授業案 12

英語スピーキングにおける「やり取り」を促進する指導法 12

講演／シンポジウム（午前の部） ［1404 教室＋ライブ（Zoom）］ 11:10-12:10 13

講演：文学を教えること・学ぶこと～イギリス児童文学を題材に～ 13

講演・シンポジウム（午後の部） ［1404 教室＋ライブ（Zoom）］ 15:50-17:20 13

シンポジウム：グローバル時代下の歴史教育－自国中心の歴史観からの脱出を－ 13

ポスターセッション 1310・1311 教室＋オンデマンド（PDF 閲覧） 13:00-14:00 / 3/16～3/23 14

Case report: Practicing CLIL to teach sustainability and English focusing on qualitative analysis of students' changing view on learning 14

過疎地の観光振興における多言語化とその課題 14

タブレット端末活用プロジェクトーデジタル壁画「うご板」の現状と課題についてー 14

新潟大学マイナー支援科目における授業 SA の受講生へのアドバイスに関する研究－対面授業と非対面授業の差異に着

目してー 15
観光地における異文化理解の実態についてー観光ガイドと Tripadvisor の照合からの考察ー 15
GHQ 美術記念物課の仕事から　2 15
大学の就職支援サポートから見た外国人留学生の就職活動の実態と課題について 16
Recent Activities on Australia-Japan Network for Energy Transition and Critical Materials 16
プログラミング的思考力を培う低学年向け絵本の提案 16
チュートリアル型 PBL 実践の提案ーウクライナ支援活動を通じてー 17
現代アメリカの政治討論におけるディベート手法の分析ーアメリカ大統領候補テレビ討論会の事例からの考察ー 17
自伝的小説に基づくクリエイティブ・ライティング 18
人を動かす“動く建築”ー卒業制作の成果発表をもとにー 18
大学英語教育における学士課程全体を通じたカリキュラムの構築に向けて 18
日本人大学生の英文ナラティブ分析ー文理別動機付けの差異に焦点を当てて 19
中国の“一条龙”英語教育改革と英語教授法“POA” 19
Sketches by Boz にみる人間関係と呼称 19

JAILA 第 12 回全国大会　研究発表およびシンポジウム概要

研究発表・午前の部 ［1406 教室］ / 10:00-10:30 / 10:30-11:00

教育における「調和と協調に基づくウェルビーイング」を考える

宇野 光範　神戸親和大学　准教授

令和５年の次期教育振興基本計画（中教審答申）のコンセプトには「日本発の調和と協調に基づくウェルビーイングを発信」することが掲げられている。本発表では、ウェルビーイングという包括的な概念の思想面における基礎をめぐり、ユーダイモニア（生きがいや人生の意義）をヘドニア（快楽）よりも高次に置きがちな見方に対して、快楽主義的な教養観の再評価を試みる。教育において個人的快楽と他者との共創を橋渡しするものとしての「ウェルビーイング」という語彙の有用性を探求する。

小学校低学年における外国語教育の全国的動向：必修ではない状況下での地域差

青田 庄真　茨城大学　助教

2017 年告示の学習指導要領により、小学校中学年で新たに外国語活動が必修となり、高学年ではそれまでの領域が外国語科として教科化された。一方で、１・２年次の外国語教育に関しては学習指導要領に明確な位置付けがない。地域差の是正が小学校外国語教育拡大の論理としてしばしば用いられてきたことを踏まえ、全国の市区町村教育委員会に対する質問紙調査の結果をもとに、小学校低学年の外国語教育の全国的な動向を分析した。

研究発表・午前の部 ［1403 教室］ 9:30-10:00 / 10:00-10:30 / 10:30-11:00

マーガレット・アトウッドの『マッドアダム』シリーズにおける人間の良心のメタファーとしての動物

張 可瑩 大正大学 大学院生

『マッドアダム』シリーズにおいて動物は人間の倫理、道徳、そして宗教に深く関わる。動物は善と悪の曖昧な境界線上におかれ、人間の環境破壊の証人となり、同時に人間性の鏡としての役割を担う。人間が失った純粋さや無垢さを動物が象徴し、環境破壊への罪悪感や反省を人間に促すとともに、動物は深い共感と感情の対象となり、人間の心を癒す。エコロジーの視点からメタファーとしての動物の役割を考えてみたい。

英語学習における現代の和製英語の影響

五ノ井 杏 東京大学 大学院生

情報技術がますます発達し、様々な言葉が溢れる現代において、英語から借用・誤用された「和製英語」も多く登場してきている。曖昧で無責任なカタカナ語が蔓延するなか、生徒・学生らは複雑な語彙や文法にまみれながら英語を学習している。そこで本研究では、学習者に対して和製英語に関する小テストと意識調査を実施した上で分析し、和製英語による英語学習への影響、特に、文法や語彙の正確さに関する現状を把握することを試みる。

Enhancing Japanese International Students' Opportunities for Socializing in English during Their Study Abroad

Yoshifumi Fukada Toyo University, Professor

Japanese students enroll in study abroad (SA) programs in English-speaking countries to improve their English proficiency through target language (TL) socializing. This involves engaging in social practices and interactions with locals and individuals from other nations in English. However, language acquisition during SA is not an "inevitable, effortless, or osmotic process" (Kinginger, 2009, p.114). Therefore, students must proactively seek out socializing opportunities, utilizing their agency as a socioculturally mediated capacity to act (Ahearn, 2001).

This study examines the self-initiated, TL-mediated socializing of Japanese undergraduate students as part of a longitudinal qualitative study. Data were collected from nine students using various research techniques, including pre-surveys, network mapping, informal interviews, reflective writing, and diary entries. Analysis employed a thematic coding technique within the frameworks of situated learning (Lave & Wenger, 1994) and affinity space (Gee, 2004). The findings highlight the dynamic, fluid, and temporal nature of international students' socializing and the ecological

complexities involved in their co-construction of TL-mediated socializing opportunities.

研究発表・午前の部 ［1407 教室］ 9:30-10:00 / 10:00-10:30 / 10:30-11:00

「準文学」テクストの文体：メタ言語能力育成の視点から

寺西 雅之　兵庫県立大学　教授

英語教育の主流となりつつある CLIL（Content and Language Integrated Learning）に代表されるように、ことばそのものよりも内容を重視する授業・学習が推奨される一方、文法や技法など「ことばそのものについて」深く学ぶ機会は、言語教育全般で相対的に軽視されているようである。本研究では、非文学テクストを文学的に読む試みを通じて、CLIL の弱点とも言える「メタ言語能力の育成」について考察してみたい。分析対象となるテクストは、必ずしも日常言語ではないが文学作品とも言えない「準文学」テクスト、具体的には広告、ポップソング、漫才などである。これらのテクストを、語りの構造、オクシモロン、アイロニ、メタ・メッセージなどの「文学的特徴」に着目して分析し、ことばそのものに関する深い学びと考察が言語教育に貢献する可能性について再検証してみたい。

多文化共生社会の実現のためのやさしい日本語の位置づけ－異文化コミュニケーションにおけるやさしい日本語の貢献と限界－

姜 碩　山口県立大学　大学院生

2019 年 4 月の改正入管難民法の施行により、日本で暮らす外国人の数が増えてきた。この現状を踏まえ、日本に在住する外国人の多様な国籍、母語、そして日本語能力を紹介し現状を報告する。また日本人と外国人が文化的な違いを認め合い、対等な関係を構築しながら、ともに生きていく多文化共生社会を実現するための言語政策である「やさしい日本語」の成り立ちにと意義について説明し、それに対する研究成果について紹介する。

研究発表・午後の部 ［1406 教室］ 14:10-14:40 / 14:40-15:10 / 15:10-15:40

英語に堪能な若手小学校教師の英語音声指導観の変容過程③－多様性と明瞭性をめぐる葛藤に関する省察に着目して－

和田 あずさ　宮城教育大学　講師
ナットチー 直子　能勢ささゆり学園　教諭

本研究は、英語に堪能な小学校英語教師の音声指導に関する省察の経年的な変容を捉えることを大きな主題とする。発表では、発音の多様性を認めようとする信念と英語らしい特徴を保った発音を重視しようとする信念の対立が生じ、実際の指導のあり方について授業者が葛藤を抱いていることに着目し、この点に関わる授業内の授業者の実際の指導とその背景にある心的過程およびこれらについての省察に関する事例の解釈を取り上げる。

海外研修引率を通じて見る学生同士のコミュニケーションの変化について

佐藤 洋一　東洋大学　教授

2020 年初頭に起こったコロナ禍への対策として、「三密の防止」の重要性が叫ばれたのはまだ我々の記憶に新しい。結果、現在の日本において就学している学生の多くは、学生時代の大半を「三密防止」の環境の中で過ごしてきている。このことによって、学生同士のコミュニケーションは大きく変質してきている。本研究では、研究者自身がコロナ以前とコロナ以後に、大学生の海外研修の引率教員として従事した経験に基づき、学生同士のコミュニケーションの容態の変化について分析する。結びとして、今後需要が再び高まると予想される海外研修のあり方について論じる。

DeepL を使用した授業内英作文活動の意義と課題－大学生の英作文に対する意識に焦点を当てて－

奥石 采佳　東京大学　大学院生
上原 遼　東京大学　大学院生

本研究では、日本国内の大学生を対象に DeepL を使用した英作文の活動を実施し、学習者がその過程で何に着目するか分析した。また、学習者が英作文をする際に得た気づきと、中等教育段階の被教育経験の関連性を、アンケート調査を実施し検討した。本研究の結果を踏まえ、日本における DeepL を使用した英語指導の在り方やその役割について考察する。

研究発表・午後の部 ［1403 教室］ 14:10-14:40 / 14:40-15:10 / 15:10-15:40

短期ボランティア活動の多様な在り方と地域ニーズに関する比較研究－アジア５カ国における大学生の活動事例を中心として－

岸田 夕奈　兵庫県立大学　学生
乾 美紀　兵庫県立大学　教授

本研究の目的は、アジアの大学生が行う短期ボランティア活動にどのような多様性が見られるか、またそれらが地域ニーズとどの程度合致しているかを明らかにすることである。研究にあたり５カ国（日本、ラオス、カンボジア、インドネシア、韓国）の学生が集まる報告会に参加し、地域の問題を解決するために取り組んだ支援事例を比較した。発表では学生のどのような活動が地域のニーズと合致していたか精査した結果を報告する。

ラオスにおける村教育開発委員会の役割と効果に関する研究－５つの村の学習成績に焦点を当てて－

宮城 ひなた　兵庫県立大学　学生
乾 美紀　兵庫県立大学　教授

ラオスでは教育の地方分権化の一環として、自律的運営学校（School-Based Management）の概念を取り入れ始めた。その影響で村教育開発委員会（VEDC）が各村に設置され、村内での教育課題解決に努めている。本研究の目的は、山岳地帯に位置する５村において VEDC がどの程度充足し、その役割を果たしているかについて明らかにする。発表では、VEDC の充足度が村の子どもの学習成績にどのような影響を与えているか現地調査により明らかにした結果を報告する。

学士課程での英語語彙学習レベルについての考察

山本 五郎　法政大学　教授

高校卒業までに学習すべき英語の語彙レベルについては文科省の『外国語の抜本的強化イメージ』等によって目標が設けられているが、大学での教養英語として学習対象とすべき語彙については充分な研究が行われていない。本研究では、2020 年以降に出版された英語雑誌を基にして時事英語コーパスを新規構築した。コーパスを基に作成した頻度順語彙リストから高校必修相当の語群を除いた大学生向け語彙リストを抽出し、その特性について考察する。

研究発表・午後の部 ［1407 教室］ 14:10-14:40 / 14:40-15:10 / 15:10-15:40

日英語の捉え方の違いに着目した文法授業案

篠崎 亮哉 東京大学大学院研究科 研究生

本発表では、日英語の視点の違いに着目した文法授業案を提案する。言語に現れる視点の違いとは、例えば主語の有無などが挙げられる。これは、認知言語学の考え方に基づくと、日本語話者は主観的把握、英語話者は客観的把握を取りやすいという、事態の捉え方の違いによるものであると考えられる。そこで本研究は、主に高校生を対象に、日常生活でみられるような言語表現から、小説や俳句といった文学作品までを教材とし、日英語の視点の違いに着目した文法授業案を提示する。

英語スピーキングにおける「やり取り」を促進する指導法

麻生 雄治 大分大学 教授

現行の学習指導要領では、「話すこと」の指導をこれまでより強調しているように思えるが、実際には話すことにおける課題は大きいことが報告されている。それぞれの学習段階で目指すべき「やり取り」の姿は異なると思われるが、効果的な「やり取り」の方法（分量、内容、形式など）に関する統一した見解は出されていない。そこで、本発表（研究）では、一つの指導法としてテンプレートを活用することが「やり取り」の練習にどのような影響があるか（効果的であるか否か）を調査し、指導法の一つとして有効であるかを検討する。

講演／シンポジウム（午前の部） ［1404 教室＋ライブ（Zoom）］ 11:10-12:10

講演：文学を教えること・学ぶこと～イギリス児童文学を題材に～

講師：佐藤 和哉　日本女子大学　教授

司会：久世 恭子　東洋大学　准教授

本講演では、講演者がこれまでおもに扱ってきたイギリス児童文学を主な題材として、文学的テクストを大学で教えること、学ぶことの意味について考えてみたい。文学的テクスト、とくに小説や物語は個々の読者が好きなように読めばよいのに、なぜ、わざわざ高等教育機関で教える、あるいは学ぶ必要があるのか、という問いがしばしば発せられる。ここでは、「インターテクスチュアリティ」という考えかたの効能と陥穽を一つの論点として、文学研究が持つ社会的意義の可能性を模索する。

講演・シンポジウム（午後の部） ［1404 教室＋ライブ（Zoom）］ 15:50-17:20

シンポジウム：グローバル時代下の歴史教育－自国中心の歴史観からの脱出を－

司会・講師：鄭 成　兵庫県立大学　教授

講師：梅村 卓　西南学院大学　准教授

小川 涼作　会津若松ザベリオ学園高等学校　教諭

ディスカッサント：劉 傑　早稲田大学　教授

グローバル時代という用語が広く使われ、国境を跨がった他国の人々との交流がますます日常的になるにつれて、自国中心の視点から脱出して、他国の視点を取り入れた複合的視点をもつ歴史観の形成は、歴史教育の課題としてその重要性を増すようになってきた。

今回のシンポジウムでは、この課題をめぐって、まず３名の講師が、高校、大学の生徒・学生の歴史認識を紹介する。引き続き、自国中心の歴史観に陥られないように、歴史教員としてどのような工夫ができるか、グローバル時代にどのような歴史教育が求められるかについて、各自の教育実践を紹介するとともに問題提起を行う。

以上を受けて、ディスカッサントの劉傑は、３名の報告に対してコメントを行い、さらに講師との討論を通じてグローバル時代下の歴史教育のあり方についての認識を深めていく。

ポスターセッション 1310・1311 教室＋オンデマンド（PDF 閲覧） 13:00-14:00 / 3/16～3/23

ポスター①

Case report: Practicing CLIL to teach sustainability and English focusing on qualitative analysis of students' changing view on learning

Ryohei Onishi Tokyo University of Foreign Studies, Doctoral Student

This presentation reports a case of CLIL-based English reading class practiced by the presenter, with SDGs as content delivered to CEFR B1-level university students. The presenter is a professional interpreter and a part-time instructor at a university in Kyoto. Since this was a new practice for the presenter, reflective journals were taken after each class to enable action research later. In retrospect, the journals provided the presenter with lessons to learn when practicing CLIL with SDGs. With the lessons in mind, this research aims at developing future educators of English that can practice CLIL to teach sustainability.

ポスター②

過疎地の観光振興における多言語化とその課題

徐 沇廷 岡山商科大学 准教授
松浦 芙佐子 岡山商科大学 教授
黎 暁妮 岡山商科大学 教授

北房は岡山県北の蛍の生息地として有名であるが、蛍が観光資源となるのは６月の一時期で、それ以外の観光資源として鍾乳洞や泉、古墳や遺跡などを巡る神秘スポットツアーが企画されている。しかし、歴史的遺産を観光資源とするには旅行者側のある程度の歴史的知識が必要となる。本発表では、インバウンド旅行者をターゲットとした歴史的遺産の観光資源化における望ましい多言語化とは何か、その課題について論じる。

ポスター③

タブレット端末活用プロジェクトーデジタル壁画「うご板」の現状と課題についてー

古川 惠子 山口県立大学 大学院生

山口市では、2021 年度から山口市教育委員会と山口情報芸術センターが協働してタブレット端末を活用したプロジェクトを企画・実施している。文部科学省提唱の GIGA スクール構想で児童生徒に貸与されたタブレット端末は、授業で積極的な活用がされている。その一環で、山口市では、中学校で教科以外での利活用としてタブレット用に開発されたアプリを使ったプロジェクト「デジタル壁画「うご板」」を実施している。山口市内の中学校の文化祭で実施された作品制作と展示の活動を通してタブレット端末活

用の現状と課題について考察する。

ポスター④

新潟大学マイナー支援科目における授業 SA の受講生へのアドバイスに関する研究－対面授業と非対面授業の差異に着目して－

青柳 匠馬　新潟大学　学生
上畠 洋佑　新潟大学　准教授

本発表では授業を支援するスチューデント・アシスタント（SA）の対面及び非対面授業中における受講生へのアドバイスの違いをテーマとする。本発表代表者は新潟大学マイナー支援科目「分野横断デザイン」の授業 SA を令和４年はオンライン授業で、令和５年は対面授業で経験した。その経験を通して、対面授業の方が受講生にアドバイスしやすい点があることに着目した。本発表では本研究代表者と同様に授業 SA 経験をした学生にインタビューを実施し、その分析結果について報告する。

ポスター⑤

観光地における異文化理解の実態について－観光ガイドと Tripadvisor の照合からの考察－

竹川 美穂　兵庫県立大学　学生
寺西 雅之　兵庫県立大学　教授

「ポストコロナ」のフェーズに入り、日本においても観光需要が本格的に回復し始めている。観光コミュニケーションに目を向けると、実用性を重視した英語教育に加え、生成 AI や機械翻訳の進化により、外国人向けの情報伝達は、質・量ともに充実しているのは確かである。その一方で、小さな翻訳ミスや情報欠如が思わぬ誤解や結果を招く危険は依然として存在している。以上の観光を巡る背景を踏まえ、本研究では日本の世界遺産を紹介する観光ガイドとそこを実際に訪れた観光客が書いた口コミである Tripadvisor の内容を比較し、日本語および英語で書かれた情報や説明が、実際にその場を訪れた観光客の異文化理解度にどのような影響を与えているかについて文体およびナラティブ分析から考察する。

ポスター⑥

GHQ 美術記念物課の仕事から　2

五十嵐 潤美　岡山大学　講師

占領下日本の美術行政を指導した GHQ 美術記念物課がどのような業務をおこなっていたかを、残された行政資料、特に出張記録から読み解く。美術記念物課の構成員は、日本各地に頻繁に出張し、また各地に美術調査員を派遣し、日本中を網羅して活動した。それら活動の具体的な調査対象、調査内容を明らかにする。

ポスター⑦

大学の就職支援サポートから見た外国人留学生の就職活動の実態と課題について

ウィックストラム 由有夏　武庫川女子大学　准教授
江田 早苗　ミドルベリー大学日本校　所長

本発表は、就職サポートを提供する大学職員へのインタビューを通し、日本での就職を目指す外国人留学生の就職活動の実態と課題について分析することを目的としている。この分析調査により、①留学生に求められる日本語能力、②日本語を母語とする新卒採用の就職活動者と同条件での採用選考、③企業側と新卒採用留学生との間のキャリア形成イメージの相違、の３点が共通課題として浮かび上がった。

ポスター⑧

Recent Activities on Australia-Japan Network for Energy Transition and Critical Materials

Mikio Ouchi　Curtin University, Adjunct Professor
Kenji Mishima　Fukuoka University, Professor
Hussein Znad　Curtin University, Associate Professor

Early 2023, Curtin University and Fukuoka University established jointly the first collaborative research network for critical materials and energy transition between Australia and Japan, funded by the Australian Government Department of Foreign Affairs and Trade, and Australia-Japan Foundation. In this presentation, results on the workshops at Fukuoka, and Perth (Australia) would be reported and discussed on future areas of research and education.

ポスター⑨

プログラミング的思考力を培う低学年向け絵本の提案

風早 由佳　岡山県立大学　准教授
森安 はづき　岡山県立大学　学生

2020 年度からプログラミング教育が小学校第５、６学年で必修化され、情報活用能力（プログラミング的思考力）の育成と各教科での学びをより確実なものにすることを目標に様々な授業実践が行われている。本研究では、低学年の算数の学習内容においてもプログラミング的思考力の素地をつくることで、高学年でのスムーズなプログラミング学習に接続することを狙いとし、低学年向けのプログラミング的思考力を育む学習絵本の提案を行う。

ポスター⑩

チュートリアル型 PBL 実践の提案－ウクライナ支援活動を通じて－

森本 芽衣　岡山県立大学　学生
大月 希海　岡山県立大学　学生
森安 はづき　岡山県立大学　学生
森田 愛未　岡山県立大学　学生
風早 由佳　岡山県立大学　准教授

大学において学生が主体的な学習活動を行う PBL 活動が様々展開されているが、学生が立案し、専門知識を生かしつつ取り組むプロジェクトは少ない。専門的学びを生かしながら課題を解決する方策を考えることは、モチベーションの維持だけでなく、学びの深化にもつながる。ウクライナ支援活動を目的として、デザイン学部学生の視点から PBL 活動を企画し、一年間取り組んだ。それらの活動成果を振り返り、デザイン学生向け PBL の提案を行う。

ポスター⑪

現代アメリカの政治討論におけるディベート手法の分析－アメリカ大統領候補テレビ討論会の事例からの考察－

福井 崇人　兵庫県立大学　学生
寺西 雅之　兵庫県立大学　教授

現代の民主主義政治においては、広く国民の理解と参画を図るために、言葉による説明や説得は必要不可欠である。政治の場での討論で重要なのは、論理的な整合性と、それを正しく、同時によりクリティカルに伝え、さらには発言者の優位性を確保するためのディベート手法である。日本においても政治家同士の討論は、国会だけでなくメディアを通じても見ることができるが、特にアメリカでは政治家が参加するテレビ討論番組が、大統領選等の重要な選挙結果に大きな影響を与えている。以上のような政治討論を巡る背景を踏まえ、本研究では、実際のアメリカ大統領候補テレビ討論会で見られた言葉の用法や表現手法などの分析を通じて、ディベートの言葉の特徴を明らかにし、さらにはディベートが持つ社会・文化・教育的価値について考察する。

ポスター⑫

自伝的小説に基づくクリエイティブ・ライティング

久世 恭子　東洋大学　准教授

本発表では、自伝的な中編小説を読む大学英語授業において、クリエイティブ・ライティングを取り入れた事例を紹介する。文学作品を用いたリライティングやプレディクション等の活動は以前から行われているが、近年、言語教育において創造性が注目されるようになったのに伴い、読む作品をメンター・テクストとして書くという例も報告されている。発表ではライティングの実例とアンケート調査の結果を示し、この活動の意義を議論したい。

ポスター⑬

人を動かす“動く建築”－卒業制作の成果発表をもとに－

寺西 志帆理　京都大学　大学院生

大学三年の後期から約一年半に渡り、「動く建築」という独自のテーマを追究した。採光や空間の効率的利用のために人の意志に従って動く建築は存在するが、このテーマで意味するのは自然のように“意志を持たず移ろいゆく建築”である。卒業設計で提案した「学びと潮汐のダイナミズム」という作品は、潮の満ち引きのリズムで形が変わる小学校である。子供たちの学びの場が潮汐によって移ろいゆくことで、様々な授業形態、時間割、生活空間を子どもたちに与え、彼らの主体的な学びを導く。この作品を一例として発表することで、「動く建築」が人の営みに与える新たな可能性を示したい。

ポスター⑭

大学英語教育における学士課程全体を通じたカリキュラムの構築に向けて

寺西 雅子　岡山大学　教授
荻野 勝　岡山大学　教授
大年 順子　岡山大学　教授
森谷 浩二　岡山大学　准教授
五十嵐 潤美　岡山大学　講師
吉田 安曇　岡山大学　講師

総合大学における英語教育は、１・２年生対象の共通科目に重点が置かれているため、３年生以降の高年次に至る継続的な教育体制の整備が求められている。 継続的な英語学習の実践のためには、大学全体としての自律的学習の促進、文理別や将来の目標に応じた動機付け、さらには部局との連携体制の構築など課題は山積している。岡山大学では、2025 年度からスタートする教育改革 の一環として、学士課程全体を通じた英語カリキュラムの構築を検討中である。本発表では、前回 JAILA 第 11 回大会のポスター発表からの発展と新たに見えてきた課題を中心に、岡山大学の全学的な英語教育改革の取り組みを紹介

する。

ポスター⑮

日本人大学生の英文ナラティブ分析－文理別動機付けの差異に焦点を当てて

吉田 安曇　岡山大学　講師
那須 雅子　岡山大学　教授

これまでのナラティブ研究は、L1 でのアウトプットデータを用いることが多く、学習者が L2 で発信したナラティブに焦点を当てた例は少ない。しかし、彼らの英作文では自身の経験や意思が巧みに表現されることも多く、分析・検証の意義があると考える。本研究では、日本の国立大学の学生 145 名による英文エッセイを分析し、学習環境と動機付けの関係性について検証した結果、理系と文系では英語の役割に対する意識に大きな違いが見られた。本発表では、文理別の動機付けの差異に焦点を当てて、日本の大学における英語教育への示唆を考察する。

ポスター⑯

中国の“一条龙”英語教育改革と英語教授法“POA”

北條 航　東京大学　大学院生

中国の“一条龙（一貫した）”英語教育改革は、英語教育の最終目標がコミュニケーション能力の育成とされる中で、“衔接脱节（連関の欠如）”や“费时效低（時間はかかるが効果が限定的）”という問題点の解決を目指すものである。その中で提唱された「中国に適した外国語教授法」の 1 つが产出导向法（Production-oriented Approach, POA）であり、これは伝統的なインプット重視の教授法とは異なり、アウトプットーインプットーアウトプットという一連の流れの中でコミュニケーション能力の育成を図るものである。

ポスター⑰

***Sketches by Boz* にみる人間関係と呼称**

笠本 晃代　岡山大学　大学院生

Sketches by Boz (1836) は、Charles Dickens が処女作として世に送り出した小説である。この作品は彼が作家として活躍する以前に、新聞通信員として働いていた頃、見聞きした町の風俗をスケッチしたことから誕生する。全編は四部で構成されているが、本発表においては、その中の Tales の短編小説全 12 編を考察対象とする。Dickens が描いた多数の個性的な人物とその人間関係に着目し、呼称あるいは言及行為がなされる場面を詳細に記述することによってその機能を明らかにしていく。